

# 安全データシート

## 1. 化学品及び会社情報

化学品等の名称:	滅菌ハイポアルコール 10%
供給者の会社名:	ヤクハン製薬株式会社
住所:	北海道北広島市北の里 27 番地
電話番号:	011-373-1033
FAX 番号:	011-373-1098
推奨用途:	ヨード脱色剤
使用上の制限:	所定の用途以外には使用しないこと

## 2. 危険有害性の要約

### GHS 分類

#### 物理化学的危険性

引火性液体 区分 2

#### 健康に対する有害性

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 区分 2B  
発がん性 区分 1A  
生殖毒性 区分 1A  
特定標的臓器毒性（単回ばく露） 区分 3（気道刺激性、麻酔作用）  
特定標的臓器毒性（反復ばく露） 区分 1（肝臓）  
区分 2（中枢神経系）

環境に対する有害性 分類できない

上記で記載がない危険有害性は、区分に該当しない、分類対象外、分類できないのいずれかに該当する。

### GHS ラベル要素



#### 注意喚起語

危険

#### 危険有害性情報

引火性の高い液体および蒸気  
眼刺激  
発がんのおそれ  
生殖能または胎児への悪影響のおそれ

#### 注意書き

安全対策

熱、高温のもの、火花、裸火および他の着火源から遠ざけること。禁煙。

容器を密閉しておくこと。

火花を発生させない工具を使用すること。

静電気放電に対する措置を講ずること。

容器を接地しアースを取ること。

防爆型の電気機器/換気装置/照明器具を使用すること。

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面/聴覚保護具等を着用すること。

取扱後は手をよく洗うこと。

使用前に取扱説明書を入手すること。

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

#### 応急措置

火災の場合：消火するために SDS の 5 項に記載の消火剤を使用すること。

皮膚（または髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。皮膚を水またはシャワーで洗うこと。

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合：医師の診察/手当てを受けること。

ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師の診察/手当てを受けること。

#### 保管

換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

施錠して保管すること。

#### 廃棄

内容物/容器を廃棄物処理法及び地方自治体の条例に従って廃棄すること。

### 3. 組成及び成分情報

単一化学物質・混合物の区別： 混合物

化学名または一般名

化学名または一般名	濃度または濃度範囲	(化審法)	(安衛法)	CAS RN®
精製水	61.36%	既存	11-(4)-1005	7732-18-5
無水エタノール	28.65%	2-202		64-17-5
無水炭酸ナトリウム	0.029%	1-164	8-(2)-2462	497-19-8
チオ硫酸ナトリウム水和物	9.95%		既存	10102-17-7

※重量%表記

### 4. 応急措置

吸入した場合： 被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
気分が悪い時は、医師の診察、手当てを受けること。

ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師の診察/手当てを受けること。

皮膚に付着した場合： 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこ

と。

ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師の診察/手当てを受けること。

眼に入った場合：

眼の刺激が続く場合：医師の診察/手当てを受けること。  
 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師の診察/手当てを受けること。

飲み込んだ場合：

口をすすぐこと。  
 気分が悪い時は、医師の診察、手当てを受けること。

ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師の診察/手当てを受けること。

医師に対する特別な  
 注意事項：

データなし

## 5. 火災時の措置

適切な消火剤：

粉末消火剤、噴霧水、泡消火剤、乾燥砂、炭酸ガス

使ってはならない  
 消火剤：

棒状注水

特有の危険有害性：

火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガス、煙霧を発生するおそれがある。  
 消火水は汚染を引き起こすおそれがある。

特有の消火方法：

消火活動は風上から行う。  
 火災場所の周辺には関係者以外の立ち入りを規制する。  
 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。  
 危険でなければ火災区域から容器を移動する。  
 安全に対処できるならば着火源を除去すること。  
 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。

消火を行う者の特別な  
 保護具及び予防措置：

自給式呼吸器（SCBA）眼や皮膚を保護する耐熱性の完全防護服を着用する。  
 消火活動は風上から行う。  
 火災場所の周辺には関係者以外の立ち入りを規制する。  
 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。  
 危険でなければ火災区域から容器を移動する。  
 安全に対処できるならば着火源を除去すること。  
 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。  
 消火するために SDS の 5 項に記載の消火剤を使用すること。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項・保護  
 具及び緊急時措置：

作業者は適切な保護具（『8. ばく露防止措置及び保護措置』の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。  
 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。  
 全ての着火源、熱源を取り除く。  
 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。  
 関係者以外の立ち入りを禁止する。  
 密閉された場所に立入る前に換気する。  
 屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。  
 漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。  
 適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、ガスを吸入しないようにする。  
 風上から作業し、風下の人は待避させる。

環境に対する注意事項：	漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。 汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意する。
封じ込め及び 浄化の方法及び機材：	漏出物を封じ込め、不活性材料（乾燥砂、土、珪藻土、パーミキュライトなど）で吸収し、行政の規制に従って密閉できる容器に回収する。
二次災害の防止策：	環境規制に従って汚染された物体及び場所をよく洗浄する。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い：	
技術的対策：	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。 防爆型の電気機器/換気装置/照明器具を使用すること。 火花を発生させない工具を使用すること。 静電気放電に対する措置を講ずること。
安全取扱注意事項：	使用前に取扱説明書を入手すること。 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 熱、高温のもの、火花、裸火および他の着火源から遠ざけること。禁煙。 取扱後は手をよく洗うこと。 容器を密閉しておくこと。
接触回避：	『10. 安定性及び反応性』を参照。 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面/聴覚保護具等を着用すること。
衛生対策：	指定された場所以外では飲食、喫煙をしてはならない。 休憩場所では手袋その他汚染した保護具を持ち込んではならない。
保管：	
保管条件：	容器を接地しアースを取ること。 施錠して保管すること。 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。
安全な容器包装材料：	データなし

## 8. ばく露防止及び保護措置

化学名または一般名	管理濃度	許容濃度 (産衛学会)	許容濃度 (ACGIH)
該当物質なし			

設備対策：	ばく露を防止するため、装置の密閉化又は局所排気装置を設置すること。 高熱工程で粉じん、ヒュームが発生する場合は、換気装置を設置する。 工具は火花を発生しないもの、電気・換気・照明機器は防爆構造とすること。 容器等は接地しアースを取ること。 この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
保護具：	本製品は不浸透性保護具着用が義務付けられている
呼吸用保護具：	リスクアセスメントに基づいた適切な保護マスクや呼吸用保護具
手の保護具：	リスクアセスメントに基づいた適切な保護手袋

眼、顔面の保護具：	リスクアセスメントに基づいた適切な保護めがね
皮膚及び身体の保護具：	リスクアセスメントに基づいた適切な保護衣（長袖作業服など）
特別な注意事項：	取扱い後は手をよく洗うこと。

## 9. 物理的及び化学的性質

物理状態：	液体
形状：	データなし
色：	無色透明
臭い：	特異臭
融点/凝固点：	データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲：	データなし
可燃性：	データなし
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界：	データなし
引火点：	データなし
自然発火点：	データなし
分解温度：	データなし
pH：	8.5 ~ 10.5
動粘性率：	データなし
溶解度：	データなし
n-オクタノール/水分係数：	データなし
蒸気圧：	データなし
密度または相対密度：	データなし
相対ガス密度：	データなし
粒子特性：	データなし

## 10. 安定性及び反応性

反応性：	常温においては反応性はない。
化学的安定性：	正しい取扱いや保管では安定。
危険有害反応可能性：	データなし
避けるべき条件：	混触危険物質との接触および加熱。
混触危険物質：	強酸化剤 強酸 強アルカリ
危険有害な分解生成物：	熱分解により、刺激性のガスや上記が発生する可能性がある。

## 11. 有害性情報

急性毒性(経口)：	区分に該当しない
急性毒性(経皮)：	区分に該当しない
急性毒性(吸入：気体)：	区分に該当しない
急性毒性(吸入：蒸気)：	区分に該当しない
急性毒性(吸入：粉じん・ミスト)：	分類できない
皮膚腐食性・刺激性：	分類できない

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性：	区分 2B
呼吸器感作性：	分類できない
皮膚感作性：	分類できない
生殖細胞変異原性：	分類できない
発がん性：	区分 1A
生殖毒性：	区分 1A
生殖毒性・授乳影響：	分類できない
特定標的臓器毒性（単回ばく露）：	区分 3（気道刺激性、麻酔作用）
特定標的臓器毒性（反復ばく露）：	区分 1（肝臓） 区分 2（中枢神経系）
誤えん有害性：	分類できない

## 12. 環境影響情報

水生環境有害性短期（急性）：	分類できない
水生環境有害性短期（慢性）：	分類できない
生態毒性：	データなし
残留性・分解性：	データなし
生体蓄積性：	データなし
土壤中の移動性：	データなし
オゾン層への有害性：	分類できない

## 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物：	廃棄においては、廃掃法及び関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。 廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。
汚染容器及び包装：	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

## 14. 輸送上の注意

国際規制：	データなし
国内規制：	
陸上規制情報：	消防法の規定に従う
海上規制情報：	船舶安全法の規定に従う
航空規制情報：	航空法の規定に従う
特別の安全対策：	輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等のないことを確かめる。 転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れ防止を確実にを行う。 移送時にイエローカードの保持が必要。

## 15. 適用法令

労働安全衛生法:	危険物・引火性の物 ・メタノール、エタノール、キシレン、酢酸ノルマルーベンチル（別名酢酸ノルマルーアミル）その他の引火点が零度以上三〇度未満の物
	名称等を表示すべき危険物及び有害物 ・エタノール 規則別表第 2 の 205
毒物及び劇物取締法	非該当
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR 法)	非該当
大気汚染防止法	揮発性有機化合物 (VOC) ・法第 2 条第 4 項 エタノール
消防法	第 4 類 引火性液体 アルコール類 危険等級 II
水道法	法第 4 条 (炭酸ナトリウム)
農薬取締法	該当 (エタノール)

## 16. その他の情報

参考文献:	JIS Z 7252:2019 JIS Z 7253:2019 事業者向け GHS 分類ガイダンス(令和元年,経済産業省) 化学物質総合情報提供システム(CHRIP) (NITE) 国際化学物質安全性カード (International Chemical Safety Cards (ICSC) 2020 版危険物輸送のための緊急時応急措置指針 容器イエローカードへの適用 危険物船舶運送及び貯蔵規則 (21 訂版) 国土交通省海事局検査測度課 監修
その他:	記載内容は、一般に入手可能な情報及び自社情報に基づいて作成しておりますが、現時点における化学又は技術に関する全ての情報が検討されているわけではありませんので、いかなる保証をなすものではありません。 なお、新しい知見及び試験等により改正されることがあります。 また、注意事項は、通常の取り扱いを対象としたものです。 全ての化学製品は、未知の有害性があり得る為、取り扱いには細心の注意が必要です。 ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定下さるようお願い申し上げます。